



## 施設一体型小中一貫校、ならやま小中学校の誕生

1972年に児童数15名で開校した右京小学校は、7年後の1979年には30学級児童数1,122人のマンモス校になりました。神功・朱雀方面の開発が進むにしたがい更に児童数が増えることとなります。そこで、1980年右京小学校から神功小学校と朱雀小学校が分割されました。分割により右京小学校は25学級959人になり神功小学校は10学級286人での発足でした。その後神功小学校の児童数は増え2007年には21学級507人のピークを迎えました。しかし、新興住宅地の常で子どもたちが成長すると後が続きません。2021年には右京小学校は9学級180人、神功小学校も14学級231人まで激減しました。また、両校の校舎の老朽化も激しく、特に神功小学校では教室や廊下、体育館などで雨漏りが酷く、あちこちに雨漏りを受けるバケツなどが置かれている状態でした。

奈良市教育委員会では、2016年10月学校規模適正化後期計画を公表し、その中で平城西中学校区全体の教育環境を鑑みた小中一貫教育を軸とした統合再編を検討するとしました。統合の方向について、賛否両論がありました。2019年3月奈良市市議会本会議にて統合に向けて施設整備を盛り込んだ予算案が可決され、統合に向けての準備が始まりました。

### 先進校の見学

同年6月、地域住民有志は、小中一貫校の京都市立凌風学園と宇治市立黄檗学園の見学に出かけました。行って吃驚！これが学校！校舎内は明るく、教室も廊下も広くゆったりとしています。私たちがこれまで見てきた学校、教室が東西に並びその北側に廊下があるというのは昭和25年頃のモデルです。

文科省では、施設整備指針を定めています。それによると「児童等の学習のための場であるのみならず、児童や教職員の生活の場としてゆとりと潤いのある施設環境を計画することが重要である。」と書かれている

ます。なるほど！

### 校名・校章・校歌

これらのことを決めるため、新小中一貫教育学校開校準備委員会が設置され計22回開催されました。

・校名については、児童、生徒、保護者、教職員、地域住民の公募アンケートを実施しました。応募総数307件の中から「ならやま小学校」「ならやま中学校」「愛称ならやま小中学校」と決めました。

・校章については、子どもたちと一般公募合計322点の応募作品の中から、山形県在住の菅野薫様の作品を選ばせていただきました。統合される神功小学校の校章から「鏡」、右京小学校の「花」、平城西中学校の「松」を取り入れたデザインです。3校の歴史や伝統・勉学・スポーツ・芸術・文化のあらゆる情報交流のきずなを大切に、新たな歴史を作っていってほしいという願いを込められたとのこと。

・校歌については、小学校と中学校を同じものにするのか、別のものにするのかという議論もありましたが、新設された小中学校に通う児童生徒が同じ校歌を歌うことの意味合いを重視し、1曲の校歌とすることになりました。

・歌詞については、全国に公募し、応募作品152点の中から埼玉県出身の宮崎宜男様の作品を選ばせていただきました。統合される「ならやま小中学校」に集う子どもたちが、それぞれの未来に向かって、健やかに成長して欲しいと想いを込められたとのこと。

・曲については各種作曲を手掛けている㈱オクターブミュージックに依頼しました。

### 最後に！

**この学校が、地域の子どもの学びの場、生活の場として末永く愛されることを祈念しています。**

## 高の原トピック

# 地域と高等学校とのかかわり

### 奈良県立平城高等学校

昭和55年4月開校。開校当初は地域との交流はあまりなかったが、昭和62年の地域の夏まつり以降、少しずつ地域連携が始まった。新しく「教育コース」ができ、近隣の小・中学校への教育補助やスクーリング、地域防災への支援、学校内の花植え協働事業、祭りや地域行事への参画協働など、順次拡大し、地域と学校のかかわりの礎を築き、絆を積み上げてきた。

ところが平成30年の「県立高等学校適正化実施計画」により平成31年4月（令和元年度）から募集停止し、令和3年度（令和4年3月）で閉校になった。少子化による学校再編であったが地域では受け入れがたく何度も県教育委員会に抗議したが叶わず、奈良高等学校が令和4年度（令和4年4月）に移転してくることになった。地域としては、それを受け入れるしかなく、朱雀地区自治連合会が県教育委員会へ緊急に学校運営協議会の立ち上げを要請した。平成30年9月から協議会を設立し、平城高等学校、奈良高等学校、平城東中学校、朱雀小学校、地域代表で協議を重ね、奈良高校移転後、①平城高校メモリアルルームを設置すること、②地域連携担当教諭を配置すること、③平城高校の地域連携を引き継ぐこと、④移転後数年は、県教育委員会から事情を理解している校長先生を就任させること、などを盛り込んだ約束を交わし、迎え入れる準備をした。

### 奈良県立奈良高等学校

令和4年4月に法蓮町から朱雀に移転。令和5年に創立100周年を迎えた。校内に『地域連携センター「平城山」（ならやま）』を設置し、担当教諭を置き、平城高等学校の地域連携を継承している。令和4年度および令和5年度、近隣の小・中学校へのオープンスクールや公開講座、地域の防犯活動への参画、すざく音楽祭への出演と司会協力、夏まつりへの出店・準備等への協力、キッチンカーフェスタへの出演、平城高等学校から引き継いだ平城東中学校区地域教育協議会主催行事「平城高校生と遊ぼう！」は、「わくわくフェスティバルin奈高」に名称を変えて人気行事の一つです。その他細かい配慮により地域連携ができています。また、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の取り組み紹介や、文化祭の公開など、開かれた学校として地域にも溶け込んできました。

### 京都府立南陽高等学校

京都府立南陽高等学校は、昭和61年4月に相楽ニュータウンの高等教育を担う学校として開校しました。平成18年には京都府下全域を学区としたサイエンスリサーチ科が設置され、平成30年4月には附属中学校も開校しています。

「進取」、「敬愛」、「雄健」を目指す人間像とした教育方針のもと、部活動も積極的に行われています。中でも吹奏楽部は、平成23年に関西吹奏楽コンクールへ京都府代表として出場を果たしました。翌年の兜台さくらまつりで演奏を披露していただき大いに盛り上がりました。令和4年11月に開催された平城・相楽ニュータウン街びらき50周年記念事業でも開会のオープニング演奏を務めてくれました。

また、社協兜台が開催している兜台とんど焼きでは、生徒会が絵馬やおみくじを用意していただき子供たちから大人への励ましのメッセージとして大好評でした。このように、南陽高校には企画力と行動力で地域活動に参加いただいています。